

令和2年3月の解説（府県天気予報）

【3月の天候状況】

上旬は、冬型の気圧配置が現れにくく、全国的に天気は数日の周期で変化しましたが、本州南岸や日本海を低気圧が頻繁に通過したため、広い範囲で曇りや雨の日が多くなりました。このため、北日本太平洋側の日照時間の平年比は60%となり、3月上旬としては1961年の統計開始以降で最も少なくなりました。また、低気圧の通過に伴って、南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、しばしば雨が降り、大雨となった所もありました。期間の中頃は、三陸沖を発達しながら北上した低気圧の影響で、北日本では暴風雪や高波となり、北海道太平洋側を中心に大雪となりました。また、期間の終わりは、前線を伴った低気圧が日本海から北海道付近を通過し、北海道太平洋側を中心に大雨や暴風となったほか、融雪により浸水等の被害が発生した所もありました。気温は、南から暖かく湿った空気が流れ込みやすかったため、全国的に高い日が続きました。東日本の平均気温平年差は+3.1℃となり、3月上旬としては1961年の統計開始以降で最も高くなりました。

中旬は、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化しましたが、高気圧に覆われる日が多く、東日本太平洋側や西日本を中心に、全国的に日照時間が多くなりました。低気圧は日本の南や日本海を通過しやすかったため、北・東日本日本海側では雨や雪となった日があり、沖縄・奄美では期間のはじめと終わりに雨となりました。また、19日から20日にかけては、日本海を発達しながら東北東に進んだ低気圧の影響で、北日本、東日本、西日本の広い範囲で暴風や高波となりました。気温は、沖縄・奄美では、大陸から寒気が流れ込みやすかったため低くなりました。北日本、東日本、西日本でも平年を下回る日がありましたが、総じて南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、高く、北日本ではかなり高くなりました。

下旬は、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化しました。期間の中頃までは高気圧に覆われる日が多く、晴れた所が多くなりましたが、その後は、日本付近は低気圧や前線の影響を受けやすく、湿った空気が流れ込んだため、広い範囲で曇りや雨となり、大雨となった所もありました。また、29日は南岸低気圧の影響で寒気が流れ込んだため、関東甲信地方と福島県では大雪となった所がありました。気温は、南から暖かい空気が流れ込みやすく、全国的にかなり高くなり、東日本と西日本でも夏日となった所がありました。沖縄・奄美の平均気温平年差は+1.9℃となり、3月下旬としては1961年の統計開始以降で最も高くなりました。

【3月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より2ポイント高い86%で、明後日予報は例年値よりも4ポイント高い84%でした。地方別の適中率では、明日予報は、北海道、東北、関東甲信、北陸、近畿、四国、九州北部の各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、北海道、東北、関東甲信、北陸、近畿、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。

同じく17時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.2℃小さい1.5℃で、東海地方で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.3℃小さい1.2℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5月の天気予報の利用にあたって】

5月は、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、低気圧が発達しながら日本付近を通過して大荒れの天気となることもあります。また、上空に寒気が流れ込むと大気の状態が不安定となり、穏やかな晴れの天気から一転して雷や突風・竜巻、局地的な大雨、降ひょうとなることがあります。屋外での活動を計画している場合は、天気予報とともに最新の気象情報や注意報、警報の発表状況にも留意し、天気の急変などに備えてください。